

# 令和5年度 南アルプス市立櫛形北小学校 学校関係者評価書

令和6年2月6日(火)  
学校関係者評価委員会作成

## 第2回学校関係者評価委員会

日時 令和6年1月19日(金)

会場 櫛形北小学校図書室

評価者 学校関係者評価委員

【学校評議員】 横小路 淳一 (元中学校校長)

長澤 光 (元中学校校長)

【各地区長】 山本 武志 (曲輪田区長) 深澤 眞 (上宮地区長)

小林 直樹 (桃園区長)

【PTA】 森 恵美 (PTA母親代表) 依田 友理 (PTA母親代表)

【学校】 志村 泉 (校長) 佐野 良彦 (教頭)

内容 1 学校側からの提案

- ① 学校評価の方法について
- ② 教職員自己評価の内容と結果について
- ③ 児童アンケートの内容と結果について

2 協議

- ① 学校評価への全体評価, 項目ごとの評価・達成状況について
- ② 学校教育全般について

## 《学校関係者評価書》

### 1 全体的な評価について

教職員の自己評価や児童・保護者へのアンケート調査の結果を見ると、前期に引き続きいずれの評価においても肯定的評価が多く見られている。この結果から櫛形北小学校の教育活動は、概ね適正に行われ、児童や保護者からも肯定的に受け入れられていると考えられる。しかしながら、前期に比べて否定的評価が増加した項目もあるので、そういった意見に耳を傾けるとともに、原因を分析して次年度の指導につなげてもらいたい。

また、具体的には次の3点について、これからの指導に生かしていただきたい。

- ① 登下校における児童の安全について、学校の指導と地域の見守りが重要である。
- ② タブレット端末の利用はどの程度進んでいるのか。ただ、職員同士で使用方法を共有しながら進め、このようなことが教員の過度な負担にならないようにしてほしい。
- ③ スマートフォンなどはうまく利用すればとても便利で必需品になりつつあるが、どのように使うかを家庭で話し合ってから利用させることや、スマートフォンに限らずさまざまなことで保護者がきちんとした姿を見せることも重要である。

### 2 評価委員会の中で委員の皆様から出されたおもな意見

#### ○ 児童アンケートについて

【学校生活】に関わって

- ・ 「困ったことがあったら相談できる友だちがいる」の項目でA評価が下がったのは気になるが、新型コロナウイルス感染症が5類になって、まわりとの関わりが増えたことが影響したのかもしれない

れない。しかし、関わりが増えれば+の効果も期待できるわけで、目配りもこれまで以上にしつつ取り組みを進めていく必要があるだろう。

- ・ 「学校が楽しい」の項目における否定的回答は少なくなっているように見えるが、「楽しくない」は倍増しており、大いに気になるところである。
- ・ すべての児童が「学校の決まりを守っている」と自覚していることは立派である。

#### 【確かな学力】に関わって

- ・ 授業に集中し内容がわかるからこそ、しっかりと自分の考えを伝えることができる児童が多いのだと思うが、内気で目立たない児童への目配りも欠かせない。また、各家庭で決まった時間に勉強するという習慣付けをしているからこそ、学力向上につながっていると思う。
- ・ 「家に帰って勉強する」の項目では、家庭学習の定着がみられ、すばらしい。また、「学校の授業が分かる」の項目でも約93%の児童が肯定的評価をしていることもすばらしい。

#### 【豊かな心】に関わって

- ・ 小中一貫教育として、取り組んでいる成果が上がっていることを感じる。
- ・ あいさつについては、学校だけでなく日々の家庭生活での習慣付けが大切で、保護者のへの情報発信も必要かと思う。

#### 【健やかな体】に関わって

- ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」については多分に家庭環境に左右される部分が大いだと思う。学校では、児童への早寝早起きと朝食をとることの大切さを日々地道に教えていってほしい。

### ○ 職員による学校評価について

#### 【学校経営・学校運営への参画】に関わって

- ・ 教職員が常に連携をとりながら教育活動を行い、成果を上げている様子がうかがえる。能登半島地震による罹災者に思いを寄せ、どの児童にも今以上に危機管理意識を持たせてほしい。

#### 【学習指導】に関わって

- ・ 「めあての提示」「めあての評価」は、とても大事な授業の要素である。このことが、前期に比べ向上し、両方とも100%となったことは、取り組みの成果だと思う。

#### 【生徒指導・生活指導】に関わって

- ・ 児童一人一人の特性は違い、その対応はそれぞれで難しい面もあるが、外部の知識も活用しながら進めてほしい。
- ・ 児童のちょっとした行動の変化も見逃さないという、教職員のきめ細かな対応が明るく楽しい学校生活を過ごさせていると思うので、これからも継続してほしい。

#### 【保護者・地域との連携】に関わって

- ・ 情報発信によって保護者からの信頼度も変わっていくと思うので、これからも地道に続けていってほしい。

#### 【小中一貫教育】に関わって

- ・ 「学び合い」の項目では、肯定的評価が伸びており、大きな成果である。さらに伸びるように、長期的な展望を持って取り組みを続けていってほしい。

#### 【働き方改革】に関わって

- ・ 「やらなくてもいいこと」を見つけるしかないのではないかな。
- ・ 学校行事も大切な教育の一部だと思うが、教職員の負担が軽減できるようスリム化していくことも必要である。

## ○ 保護者による学校評価について

【学校が楽しいか】に関わって

- ・ 児童にとって学校が楽しいと評価している保護者が大多数ということは、教職員の教育活動の成果だと思う。これからもきめ細かなご指導を継続してほしい。

【子ども理解（学習・友達）】に関わって

- ・ 「家庭学習をしているか」の項目で、児童と同様に保護者の肯定的評価が高く、すばらしい。継続に期待したい。

【家庭・地域との連携】に関わって

- ・ 家庭との連携は大切だが、職員の過度な負担にならないような情報の送受方法（内容）にある程度の基準が必要である。

【生活習慣】に関わって

- ・ 「朝ごはん」や「家庭でのあいさつ」等、見えないところまで学校で指導することは大変だが、その大切さを日々話す積み重ねが生活習慣の向上に繋がっている。

【情報発信】に関わって

- ・ 保護者が学校通信やホームページを子どもたちといっしょに見たり、内容について話をしたりすることが学校の教育活動への理解を進めるのではないか。

## ○ その他、アンケート全般についての質問について

- ・ 「ICT機器の使用が苦手な児童への指導をどのようにしているか」について、本校では、文字入力に時間がかかる場合が多く、タブレット端末の画面上での手書き入力など、学年の発達段階を考慮して無理のない活用を心がけている。児童は使えば使うだけどんどん慣れていくので、これからも効果的な活用方法を考えながら積極的に活用していきたい。
- ・ 「学校行事も大切だが、心に余裕をもって教育活動ができるよう、教職員の負担が軽減できるようスリム化させてほしい」について、本校では、運動会やドレミファ発表会など、保護者の理解を得ながら教育的な効果を損なわないようにスリム化を進めている。